Everyone's classroom　みんなの教室

Closing The Gap

Computer Technology in Special Education and Rehabilitation

Everyone's classroom: An environment designed to invite and facilitate active participation

By Lana Sheets and Mary Wirkus

Check out the library: Copyright © Closing The Gap, Inc. All rights reserved

www.closingthegap.com/library

前号に引き続きまして、
米国のカンファレンスClosing The Gapで1996年に発表されClosing The Gap, vol16（number1, 1-9）に掲載されている論文を翻訳しお届け致します。

著者のLana Sheets（作業療法士）、Mary Wirkus（言語聴覚士）が実施したプロジェクト「Everyone's Classroom」についての結果報告です。このプロジェクトは米国ウィスコンシン州の教育省によりEarly Childhood Everyone's Classroom Discretionary Grant（助成）を通して資金援助を受け、ウィスコンシン州アシスティブテクノロジーイニシアチブという団体によって運営されました。統合教育が進む中、すべての生徒が積極的な参加ができる環境をどのように創るか、物理的な環境、相互交流、活動の3つの側面から報告と提言を行っています。

全体の内容

前号では5) 特別行事までをご紹介致しました。
今号では6) 相互交流から最後までご紹介致します。

1) 前文
2) 物理的な環境
3) 相互交流のための環境への配慮
4) 活動： お話の時間、図工、トイレ、休み時間、おやつの時間、選択の時間（粗大・巧緻運動の活動）
5) 特別行事
6) 相互交流
7) アシスティブテクノロジーの利点
8) すべての生徒が積極的に参加できる可能性

相互交流

年齢の低い子ども達と接する時には重要なことがいくつかある。1つめは、我々が子ども達に発言の手本を示すこと（モデリング）、子ども達へ質問を提示する時は制約を持たせないこと、質問した後は子どもからの返答を期待していることを態度で示す、ということである。当然ながら最初は何らかの言葉がけが必要であるが、このような接し方を行うことで子どもは会話を続けることに責任感を持つようになる。

次に、我々大人は子ども達が取り組む活動が明確な構造になっているか、判断することが重要である。初めに起こること、2番目、3番目、最後に起こることを視覚的に分かるようにシンボルを使用することは有効と考える。また我々は生徒が周囲と関わっている時に生徒が意見を発言したり、質問したりできるよう、適切な語彙が使える環境になっているか考慮しておかなければならない。「わぁ！」や「ちょっと、あれ見て！」等という言葉を使えるようにしておくと、子どもが周囲との関わり合いを持つことに積極的な気持ちを持つきっかけとなる。

最後に、生徒へサポートや手掛かりを与える、我々の「量」について考えておくべきである。同時に可能な限り早い時期にサポートの量を減らしていくことも心に留めておかなければならない。我々は生徒が仲間と交流する際に干渉したり、何かに置き換えたり、時には回避させたりさえすることもあるが、それとは対照的に「生徒へのサポートをいつ行うか」、絶えず意識しておく必要がある。例えば、数台のトーキングピクチャー（1つの言葉の録音再生機器）に1つの歌の小節を録音しておくと、すべての子ども達が共に参加できる活動になる。これは発語のない子どもに対して歌を歌う“声”を提供するだけでなく、子どもの周囲のクラスメートに対しても適した言葉選びや関わり合いのモデルを示すことになる。

内気または自信のない子ども達は大人数のグループではVOCAを使って参加する傾向にある。何度か成功を重ねると自信を持ち、自分の言葉を使い始める傾向がある。

生徒が周囲と関わるための手段は教室内で行うすべての活動において配置する必要がある。例えば、ロールプレイではビッグマックに言葉を録音し、教室の真中に置いておく。子ども達がトウモロコシに見立てたビーズクッションを使い、おりの中にいる豚に“餌をやる”。ビッグマックには「トウモロコシもっとちょうだい！」と録音しておき、豚の役の子どもがセリフを言う。このような相互的な関わり合いを促進させる活動は他にも多くある。ここで紹介した活動に加え、様々な方法で活動を提供することによって、子ども達は積極的に参加できるようになる。

積極的な参加を引き出し、促進していくために どのように環境を設計するか：その5

Lana Sheets, Mary Wirkus

アシスティブテクノロジーの利点

拡大コミュニケーション機器またはコミュニケーションを拡大させる方法を教室に導入することは、発語がない子ども達の伝達手段となるだけではなく、すべての生徒に対してコミュニケーションや参加を促進するものとなる。利用する者にとって優しい環境、参加しやすい活動、関わりたい仲間を創ることは、大人との関わり合いと同様に大変重要である。すべての子ども達に対して積極的な参加を促す物であれば材料や道具の購入も非常に有効である。

利用者にとって優しい環境を創り出した結果として以下を挙げる：

- 自発性の増加
- 主体性の増加
- 周囲と同等に扱われ、周囲に必要とされた上での参加
- 責任感
- 学習や生活経験の広がり
- 相互交流・コミュニケーションの新たな機会の増加

Everyone's classroomを通して見えたもの

［ すべての生徒が積極的に参加できる可能性 ］

Everyone's classroomでは、受動的ではなく積極的に参加・学べるよう生徒へ様々な手段を提供した。
このEveryone's classroomは生徒の主体性とすべての生徒の積極的な参加を促進する「環境の設計」である。

参考文献：
Beukelman, D., & Mirenda, P.,(1992), Augmentative and Alternative Communication: Management of Severe Communication Disorders in Children and Adults. Baltimore, MD: Paul H. Brooks Publishing Co., Ltd.
Flippo, K., Inge, K, & Barcus, J.(1995), Assistive Technology: A Resource for School, Work, and Community. Paul H. Brooks Publishing Co., Inc.

※本論文の翻訳掲載については、Closing The Gapより許諾を得ております。
※ここで使用しています写真はイメージです。本文の事例写真ではありません。

Everyone's classroom　みんなの教室、「積極的な参加を引き出し、促進していくためにどのように環境を設計するか」は今号にて最終回となります。多くの読者の方よりご好評をいただきました。誠に有難うございました。